

令和5年11月9日

相生市議会議長 様

会 派 名 輝相会
代表者名 三 浦 隆 利

出張報告書

政務活動費により視察、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

氏 名	角石茂美 森下高明 今井 大 池田 勲 中野有彦 宮艸真木 土井本子 三浦隆利	
日 程	令和5年11月6日 から 令和5年11月8日 まで3日間	
月 日	視察、研修、要請・陳情 活動、会議先	視察、研修、要請・陳情活動、会議項目
11.7	青森県三沢市	LINE 移住相談について
11.8	青森県弘前市	市民参加型まちづくり1%システムについて
.		

旅費（8名分）	負担金（ 名分）	合 計（8名分）
568,970円	0円	568,970円



視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

【青森県三沢市】

◎LINE移住相談について

(1) 事業に取り組まれた経緯について

コロナ禍の影響により首都圏からの移住者獲得を目的としたイベント等の開催が困難となり、移動を伴わずに実施できるLINEを活用した移住相談の運用を令和2年10月より開始した。

(2) 事業内容

- 移住マスコット「みさわしつじ(AI)」を設定。
- 移住相談会などに足を運ばなくても、手軽にいつでも移住に対する相談を可能とするためLINEを活用している。
- 質問データを集約し、今後の三沢市の政策に活かしている。
- LINE登録者に対し、移住に役立つ情報を発信。

(3) 事業効果について

- 移住検討者の「ちょっと聞いてみたい」に対応できる。
- 質問事項のデータ蓄積により、今後の施策検討に活用できる。
- 登録者に月1、2回情報発信をすることにより、継続的な関わりを保つことができ、関係人口として取り込める。

(4) 今後の課題及び取組みについて

<課題>

- LINE登録のため、属性がわからず、移住されたかどうか不明である。

<取組み>

- 移住希望者や三沢市に興味を持ってくれている方への周知を強化し、LINEの登録者数の増加を目指す。
- 質問事項のデータ化により、移住者の困りごとに対応する「移住ガイドブック」の作成を予定している。

視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

【青森県弘前市】

◎ 市民参加型まちづくり 1%システムについて

(1) 事業に取り組まれた経緯について

市民ニーズの多様化・高度化に対応するとともに、地域活動・コミュニティ活動の停滞からの脱却を目指し、市民によるまちづくり・地域づくりのために行う活動に対し、平成23年6月より個人市民税の1%相当額を財源に補助金を出すこととした。

(2) 事業内容について

○まちづくり（地域づくり）活動を目的とする条件を満たした団体に財政援助をする。

- ・ R5年度予算 2,800万円
- ・ 1団体 50万円上限
- ・ 一般部門とスタート部門の2部門
- ・ 学識経験者や公募委員が委員である「弘前市まちづくり1%システム審査委員会」の審査により、採択・不採択を決定。
- ・ 公益性、必要性、実現性、将来性、費用の妥当性が審査基準である。

(3) 事業効果について

採択事業の例

- ・ 世界で活躍したサッカー選手によるこどもサッカー教室
- ・ 愛犬と暮らす地域環境の改善のためのドッグフェスの開催
- ・ 市内の遺跡の改修及び美化活動 等

令和5年度採択事業	一般部門	25件（申請25件）
	スタート部門	2件（申請2件）

毎年度採択事業の事例集を作成し、他団体の今後の活動に繋がる一助として、また市民が事業に参加する参考集となっており、本事業が市民との協働によるまちづくりを広げている。

(4) 今後の課題及び取り組みについて

- 継続団体の事業の自走化を目指しているが、補助金頼りの運営団体が多い。
- 多くの団体は人材不足であり、資金調達が課題である。
- 今後は継続団体の審査基準を見直し、将来性（発展性）を重視していく。